



くまののみや

令和5年4月

第125号

宮 社 会  
雲 大 敬  
出 熊 崇

日常の五つの心

1. 「ハイ」という素直な心。
2. 「すみません」という反省の心。
3. 「オカゲサマ」という謙虚な心。
4. 「アリガトウ」という感謝の心。
5. 「ワタシガシマス」という奉仕の心。

四月十三日は御櫛祭です。この

祭典は本殿の熊野大神のスサノオノミコトから隣接する摂社・稲田神社のイナダヒメへ結納のシルシとして御櫛を献上するものです。

この祭りの歴史を調べてみますと、祭典日は明治四十三年（一九一〇）の「小祭日改定御届」（『重要書類綴』）によれば、この年から四月十三日に奉仕されて今日に至ってお

扱っていたことも想像されます。

ところが、こうした御櫛祭の十一月十三日の祭日ですが、それ以前の江戸期は、祭神の熊野大神の具体名の一つの櫛御気野命、この神自身の祭典である櫛御気野命祭が奉仕されてきました（『年中祭日』『宝暦十四年熊野大社井二村中諸末社荒神指出張』『七六四』）。この祭典は毎年収穫した新穀を神々にお

御櫛祭と十一月十三日

熊野大社宮司 熊野 高裕

ります。明治四十二年以前は明治二年（一八六九）の「年中祭日」（『祭事文書写』）に御櫛祭の名称の初見があり、以降十一月十三日の斎行でした。祭典の内容としては、詳細は不明ですが、今述べた明治二年の「年中祭日」には、御櫛祭奉仕日に「売人小櫛売買市□□」と記載があり、この頃に境内付近では「櫛の市」が立っていたことが分かると共に、そのあたりから祭典で櫛を

供えし感謝する十一月の中卯日なかのうのひに奉仕の重機・新嘗祭を直前にして、食物神で当社祭神の櫛御気野命の御名を冠し斎行されているところから、祭神のミチカラを称える祭典と考えられます。

また一方、明治四十三年から十一月十三日は、それまで十二月の祭典期日だった同じ熊野大神の「人々に狩猟の術を教示した」という神徳伝承に基づく当社古伝祭の御狩

祭が斎行されるようになり（『熊野大社誌「祭典の巻」』明治四十五年）、この日のこの祭典は平成初期まで続きました。これらのことから、当社では過去に於いて神徳表現の違いは別として熊野大神自身の祭典が十一月十三日の奉仕日となっており、またその祭典はいずれも熊野大神のミチカラを称賛するものだったように思えます。また、この十一月十三日の祭典の起源は以上のことから、宝暦十四年資料の櫛御気野命祭が最古のものといえますが、更にこの祭典は延宝二年（一六七四）の『洪北試筆抄』にも見え、そこまで遡られます。こうした十一月十三日の祭典の歴史変遷を考えますと、原初の祭典は、おそらく新嘗祭と共に長い間在ったと考えられる櫛御気野命祭だったと思われる。そして十一月十三日は、当社の熊野大神を敬仰し、その神徳を様々な祭典に繋いだ御祭神自身の祭典日だったといえるのではないのでしょうか。



# 春のおおみまつり 御 櫛 祭



## 四月十三日(木曜日)午前十時斎行

### ご案内

〔氏〕 子・崇敬会員・篤信者の皆様方には、熊野大神さまとのご神縁を深められ、ご健康でお幸福な日々をお過ごしのこととお慶び申し上げます。

日頃、熊野大神さまのご神徳顕揚のため働きかけを戴き、ご社頭は年々に賑い愈々ご神威が広まりつつありますことはご同慶の至りでございます。

〔大〕 神さまの御心を心とした「御櫛祭」を仕え奉り、ご守護に感謝し、世のため人のために尽くす心を養い、明るい社会づくりに寄与したいものと存じます。

熊野大社宮司 熊野 高 裕  
熊野大社崇敬会会長 岡崎 朝 臣  
熊野大社 氏子会  
氏子、崇敬会員、篤信者各位



春のみまつり・御櫛祭四月十三日(木曜日)午前十時。

### ご祈念のご案内

生命を与えて下さって日々ご守護を戴いている大神さまへ感謝の心をささげ、更に新しい生命力・御霊力を戴き、めまぐるしく変化していく現代社会を心惑うことなく正しく生きぬいていくことが出来来ますように、春のおおみまつりにご祈念のお取次ぎをいたしております。お申込み下さい。

一、ご祈念料 伍千円以上

(一つの願いごとにつき五、〇〇〇円以上です)

一、願いごと

家内安全。商売繁昌。良縁。会社発展。従業員安全。厄除。交通安全。五穀豊穰。安産。病氣平癒。進学成就。諸願成就。海上安全。大漁満足。その他ご希望の願いごと。

一、ご祈念を希望されます方は同封の振替用紙に、ご住所、ご氏名、ご年令、ご祈念料を明記してお申込み下さい。

一、ご祈念をしたお守はお送りいたします。又ご参拝の際は受付所にお申し出下さい。尚、電話、ファックス、又ご希望の日、何時でも受付いたしております。当社へお問合せ下さい。

# 春のおおみまつり

## 4月13日(木)

家族みなでお参りしましょう

### 御櫛祭

午前10時

このお祭は素戔鳴尊が簸の河上で八岐大蛇を退治された後に、櫛稲田姫にご結婚に先立ち、結納として御櫛を渡されたという故事にちなんだお祭りです。本殿に御櫛を供え置き、祝詞を奏上したあとにその御櫛を稲田神社にお供えします。祭典でお供えされた八個の御櫛は福引で参拝者にお頒ち致します。

### 御田植神事

午後3時30分

素戔鳴尊が住民に米作りを教えられたという故事にちなんで地元の中学生の女生徒たちが早乙女となり、御田植神事を行います。菅笠に緋の着物をまとい、赤たすきをかけて笛や太鼓にあわせて田植歌を歌いながら苗に見立てた松葉を植えて豊作を祈ります。

### 神賑 —舞踊奉納—

午後2時

美月波利哉社中

演目	長唄	松の緑
	長唄	手習子
	義太夫	万歳



他

### もちまき

御櫛祭終了時と御田植神事終了時の2回舞殿にて行います。



### 節分祭

二月三日

新型コロナウイルス感染症の状況がまだまだ予断を許さない状況の中、午前十一時より役員のみでの参列とし、節分祭厄除招福諸願成就祈禱祭を斎行した。

参拝者の方も例年であれば賽銭箱の前で豆を撒いて、厄除け無病息災を祈られるが、今年は静かに祈られていた。

恒例であった午後二時からの豆撒き神事は残念ながら本年も中止となり、福豆は境内での配布となった。



### 建国祭

二月十一日午前十時



神社役員参列のもと初代天皇の神武天皇が即位された日をお祝いするお祭り「建国祭」が新型コロナウイルスまん延防止のため参列者を少数に絞って斎行された。修祓の後、国家「君が代」を斉唱、祝詞を奏上した後、国の誕生を祝し「紀元節の歌」を奉唱した。そして氏子会長が玉串を捧げて拝礼し、皇室の弥栄、国家の繁栄、国民の幸福、世界の平和を祈り万歳三唱をして祭典を終了した。

### 祈年祭

二月十七日午前十時



本来であれば、多くの氏子の方にご参列いただきたいところではあるが、新型コロナウイルスまん延防のため氏子会役員のみでの参列のもと祈年祭を斎行した。  
参列者を清めた後、今年の五穀豊穰、諸産業の発展、皇室の弥栄、国家の繁栄、国民の幸福を祈った祝詞を奏上し、氏子会会長の玉串拝礼が行われ祭典を終了した。

### 四・五・六・七・八・九月の おまつりの日

四月 一日 早旦祭・奉賽祭  
十三日 御櫛祭  
春のおおまつりです。午前十時より斎行。

十五日 月次祭・奉賽祭  
二十九日 長寿祭

五月 一日 早旦祭・奉賽祭  
十五日 月次祭・奉賽祭  
二十八日 元宮祭

六月 一日 早旦祭・奉賽祭  
十五日 月次祭・奉賽祭  
三十日 夏越祭(大祓)

茅の輪神事とも申し、茅で作った大きな輪が随神門に立ちます。これをくぐることよって心身のけがれ、わざわいが祓い除かれて健康で幸福な日々をおくることが出来ます。お誘い合せの上ご参拝下さい。

七月 一日 早旦祭・奉賽祭  
十五日 月次祭・奉賽祭

八月 一日 早旦祭・奉賽祭  
十五日 月次祭・奉賽祭  
二十日 予定

熊野ふるさとまつり

九月 一日 早旦祭・奉賽祭  
十五日 月次祭・奉賽祭



### 天長祭

二月二十三日 午前十時

天長祭が氏子会役員の方々の参列のもと肅行された。

参列者を清めた後国歌「君が代」を斉唱、祝詞を奏上し氏子会会長が玉串拝礼を行って天皇陛下の御誕生の日を祝い、天皇陛下の健康長寿を願うとともに皇室の弥栄、国家の繁栄、国民の幸福、世界の平和を祈り万歳三唱をして祭典を終了した。



### 御狩感謝祭

三月二十六日 午後二時



野生鳥獣の狩猟期の終了を受けて島根県猟友会会長細田信男氏をはじめ県内各地より猟友会会員が参列され、厳かに奉仕された。

大麻で参列者を祓い清めた後参列者全員で国歌「君が代」を斉唱し、宮司が祝詞を奏上した後、参列された方々が大前に玉串を捧げて大神さまのご守護によって今期も無事に猟期が終了したことに感謝を表し、鳥獣の霊を慰め五穀の豊穰をも祈った。

残念ながら本年も祭典終了後の直会は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため会食を取りやめ、お直会として「兔ごはん」をお渡しました。

### 防火訓練

一月二十二日 午後二時

暖かな日差しで多くの方が参拝され、カメラを構える中、熊野大社の自警団である「天狗の会」の皆さんが恒例の防火訓練を行った。消火設備の点検の後、境内と意宇川においてポンプの操作手順の確認と機械動作の確認を兼ねた放水訓練を行った。

本年も地元の消防団である松江消防熊野分団熊中班が参加して、合同での防火訓練となった。

この訓練は毎年、文化財防火デーに近い日曜日に行っている。



### 熊野大社崇敬会 入会のおすすめ

熊野大神の御神徳を奉戴し、敬神崇祖の誠を致し健全なる国民精神の高揚に努め広く国家社会の繁栄に寄与するを目的とし、その達成のため

- ①熊野大神の御神徳発揚の為祭典、神事、行事及び諸建宇整備と保持に奉賛
- ②会員相互の親睦を計る為機関紙を発行。
- ③必要とする事業を行う。

- 一、会費
- 個人会費(年額)参千円以上  
団体会費(年額)五千円以上
- 一、待遇
- (イ)会員誕生日は健康と繁栄和楽を祈願、日供祭は全会員の安寧を祈願します。
- (ロ)春秋大祭にご案内します。
- (ハ)新春神迎の「御神符」「干支の絵馬」をお届けします。

(ニ)会員章を差し上げます。  
熊野大神さまから幸福の縁が戴かれますようご入会のご案内を申し上げます。  
お知らせの方々へのご勧誘をよろしくお願い申し上げます。

### 巫女交代祭

三月二十一日 午前十時

令人、舞講師、小学生巫女、中学生巫女、巫女父兄が参列して入学卒業、進級があるこの時期、毎年恒例の巫女交代祭を斎行した。

修祓、祝詞奏上に続いて退任の小学生巫女の藤田羽夏さんと糸原叶望さんは「幣舞」を、中学生巫

女の桑原小百合さんと須山優花さんは「浦安の舞」を立派に舞い納めた。退任の巫女、舞妓講師らが

玉串を奉奠して各舞がそれぞれに真心をこめ、元気に勤めあげるこ

とが出来た喜びと感謝の気持ちを捧げた。  
退任巫女に感謝状と記念品を授与し、新小学四年生の渡部美来さんと三島愛海さんに新任巫女の辞

### 献 詠 松江短歌の会

昨年のカレンダーはまだはがずる使はぬ部屋に時は止まりて

酒井 悦子

深深と雪降る夕べ急須より注ぐ煎茶の音のみ聞こゆ

土井 郁子

落すかもそんな予感にはめて出しコーヒー色の手袋は何処に

福島 伸子

何処で生れしか紋白蝶われの手に触れて飛び去る影のやさしさ

安部 洋子

積雪あり土日もありて友の文つかれて届く十日をかけて

安部 歌子

雪が消え畑一面の青き星オオイヌノフグリしたたかに咲く

日野 和久

木芽月小草生月雪消月二月氷雨の降りみふらずみ

弘井 文子



令を授与し、祭典を終了した。  
四月より左記の方々にて祭典時の巫女舞を奉仕していただきます。宜しくお願いいたします。

### 幣舞

小学四年生 渡部 美来さん

小学五年生 三島 愛海さん

小学六年生 白鹿 こまちさん

小学六年生 小松原明日名さん

浦安の舞 神庭 夏希さん

中学一年生 糸原 叶望さん

中学二年生 藤田 羽夏さん

中学三年生 安達 楓梨さん

岩田 咲穂さん

森本 潤奈さん

凜夏さん

### 立志お祝いのまつり

三月三十一日 午後三時

この祭は、当氏子会の事業として氏子中の中学二年生を対象に行い、昔の元服の年齢に達したこと

を祝い、大人としての自覚を促し、世のため人のために働くようにしっかりと志を立ててもらう趣旨で行っている。  
例年であれば、記念旅行を実施するところではあるが、新型コロナウイルス感染症の影響で今年も中止となり、祭典後、境内にて立志記念植樹を行った。

